

インタープリメント理事会・総会報告

丸井 英明

まるい ひであき

インタープリメント本部理事
新潟大学災害復興科学センター教授

国際防災学会インタープリメント本部の役員会と理事会兼総会が、2008年4月10日、11日にオーストリアのクラゲンフルトにあるケルンテン州政府水利局において開催された。日本から(財)砂防・地すべり技術センターの池谷理事長と新潟大学の丸井が出席した。通常の議題に加えて、本年は4年に1度の大会が5月末にフォアアルベルク州のドルンビルンで開催されるため、その準備状況の詳細が報告された。理事会兼総会で審議すべき内容は前日の役員会において会長、副会長、事務局長等の間で事前に詳細に協議されている。

理事会兼総会の冒頭でローナー会長の挨拶があり、特に(社)全国治水砂防協会の久保理事長の後を引き継いで池谷理事長が出席されたことを歓迎する旨の発言がなされた。会議では、まず2007年度第2回理事会議事録並びに第30回年次総会議事録の確認が行われた後に、事業報告、決算報告、監査報告が順次行われた。次に、理事、監事、事務局長の退任に関する報告があり、その後新規役員並びに事務局長が満場一致で選任された。この段階で、池谷氏がまず理事として、次いで副会長として承認された。また、セライニク氏は事務局長としてインタープリメントの組織改革に功績があり、日本で開催された2度の環太平洋インタープリメントにも出席され、日本との関係においても重要な役割を果たされたが、ケルンテン州政府水利局内での異動の関係で退任されることとなった。新たに、ウイーン農科大学から同水利局に赴任したコボルチュニク氏が事務局長に就任した。2007年度の事業報告に関しては、独文・英文併記の別冊報告書が配布された。インタープリメント大会開催の前年であるために、大会準備作業が活動の主要部分を占めている。報告書の内容は、ホームページ整備、コミュニケーション強化戦略、学会広告物品作成、事務局体制の変更、次回インタープリメント準備作業、関連行事(ヨーロッパ洪水会議、ドラウ川/ガイル川現地視察会、アルプス地域気候変動プロジェクト、南チロル気候変動専門家会議、気候変動への適応に関する次期プロジェクト立ち上げ、各種会議記録)を含んでいる。

数年前から、インタープリメントの新たな発展

に向けた組織改革が課題となり、いくつかの試みがなされて来た。一つは学会のホームページの充実であり、関連団体とのリンクの強化も図られた。特に注目されるのは、インタープリメントの今後の発展に向けて、コミュニケーション強化戦略を重点項目として位置づけている点である。そのため、専門コンサルタントのアドバイスを得て、報道機関並びに一般市民に対して、学会の活動内容を判りやすく説明し、強くアピールしていくことが必要との観点から、具体的な施策が取りまとめられている。池谷氏は優先順位付けと達成度評価の必要性に関して問題提起をされた。

目前に迫った、インタープリメント大会の準備作業も順調に進んでいる旨報告があった。大会は2008年5月26日～30日にオーストリア最西部フォアアルベルク州のドルンビルンで開催される。大会に向けて21カ国から241編の拡張アブストラクトの提出があり、そのうち211編が採択されている。査読を経て本論文の提出が認められたものが129編あり、約100編が印刷される予定となっている。そのうち、41編が8つのセッションで口頭発表の対象となっており、その他はポスターによる発表となる。なお、1日行程の現地見学が28日(水)に予定されており、テーマ別に12コース設定されている。また、砂防行政官サミットは「土地利用と自然災害」をテーマとして最終日の30日(金)に予定されている。

今後の企画としては、本年10月にインタープリメント設立40周年記念行事が予定されている。また、環太平洋インタープリメントに関しては、日本の松本、新潟での2回の開催を経て、次回は2010年に台北で開催する予定となっている。将来にわたって、砂防分野における学問・技術の交流の発展が期待される。



インタープリメント2008 大会風景

池谷理事長「インタープリVENT」副会長に就任

1967年からヨーロッパ・アルプス諸国において開催されてきた国際防災学会「インタープリVENT」本部の役員会と、理事会兼総会が、2008年4月10日、11日にオーストリアのクラゲンフルトにあるケルンテン州政府水利局において開催されました。

この総会において当センター理事長、池谷浩が副会長に選出されました。池谷理事長が副会長に選出されたことは環太平洋地区を代表するものであるとともに、日本の砂防技術が世界的にも高い評価を得ていること、さらには理事長の日本の砂防における功績が評価された結果であると考えられます。

今後、ヨーロッパ・アルプス諸国をはじめとする世界各国との砂防分野における学术交流がますます盛んになるとともに、日本の砂防技術が世界各国の防災技術の発展に寄与することが期待されます。

理事会、総会での検討内容や今後の活動などについては、丸井先生（新潟大学）の報告をご参照（前ページ）ください。



ローナー会長との記念撮影

インタープリVENTとは

インタープリVENT (Interpraevent) は、洪水や土石流、地すべり、落石、雪崩等の災害を防ぐため、ヨーロッパ・アルプス周辺諸国の行政の技術者や大学などの研究者が集まって、学際的に情報の交換などを行おうという学会で、1967年にオーストリア・クラゲンフルトで第1回会議が開催されて以来、4年に一度開催されており、日本は1980年のパドゥーイッシュル会議から参加を始めました。2002年には、初めてヨーロッパを離れ環太平洋地域を代表して長野県松本市にて「インタープリVENT 2002」が開催されました。

4年に一度開催されているこの会議は、土砂災害に関して定期的に開かれている国際会議としては唯一のものであります。

〈参考〉

インタープリVENTについては国土交通省の下記ホームページなどに紹介されています。

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/05/051010_.html#01

砂防技術研究所報の発行

砂防技術研究所では、「平成19年度 砂防技術研究所報」を発行いたしました。本報は、当センターが公益事業の一環として取り組んでいる自主研究を中心として、砂防学会等において発表した調査研究の概要や、今後取り組むべき技術について取りまとめたものです。お問い合わせは下記へご連絡下さい。

問い合わせ先：砂防技術研究所 鈴木 TEL 03-5276-3274 FAX 03-5276-3394

*無料配布ではございますが、部数に限りがございますので、品切れの際はご容赦下さい。